

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

<1988年7月9日創刊>
 <毎月1日発行>
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-3364
 教育110番 077-523-3715
 eメール shiga_minkei@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

「介護離職ゼロ」のしらじらしさ 教育現場を退職して思う

加藤和幸 (元高校教員)

東日本大震災の年の春、私は高校教員を定年退職した。その時、高齢の母親は元気で、自分のことは自分でできていた。私が再雇用をしないというと同僚などには不思議があったが、再雇用も時間講師もしないと決めると、地元の小さな公民館から囑託で非常勤の館長を、と請われ引き受けた。時間のゆとりもあり、高教組の震災ボランティアにも参加した。

要介護3の判定だった。

それから二年近く経った。母はちょうど87歳の誕生日に自宅でトイレに行こうとして転倒した。幸いにも家を訪れた知人が発見して下さった。骨折には至らなかったが、骨粗鬆症が進んで歩けなくなった。介護なんてほとんど考えてもいなかった私はあたふたした。入浴はできないし、下の世話も必要になつた。初めて役場の介護支援課へ行き、車椅子やスロープ、デイサービスもケアマネージャーも、とにかく何とかしなければならぬ。転倒から一か月ほどは混乱の連続だった。

近くに小規模多機能型居宅介護施設

というのがあり、そのお世話になることにした。結果的にこれが大正解だった。家族とともに食卓で食事を摂り、ポータブルトイレで自分で排泄した。さらに一年半。14年の晩秋、私は一泊旅行に出た。未明に妻から携帯。母が夜中にトイレに行こうとして転倒、今度は骨折と。すぐ病院に行くとギブスで固定している。15年の正月は病院で迎えた。入院は二か月に及び、この間に認知症が進んだ。退院後今度はインフルエンザで入院。さらに認知症が進んだ。

それからまた一年後、車椅子からずり落ちて同じ箇所を痛打した。16年の正月も病院で迎えた。要介護5と認定された。

要介護5は身辺自立ができない状態である。つまり、食事の介助、おむつ交換等々、すべてでれかが必要ならぬ。たとえば、その時間帯に私が会議中であれば、妻の都合はつくか、デイサービスは可能か、あるいは私が

会議を休むか……。それも非常勤囑託の勤務ゆえに可能なだろう。安倍政権は介護離職ゼロという。母の転倒がもし五年早かったら……。残業免除や介護休暇を使い尽くして離職せずに済むだろうか？ 昨今の教育現場の超多忙、長時間労働の職場で(その是非は措くとして)とても無理は言えまい。必然的に退職を選ばざる。

そして、今思えば、生徒たちに高齢者福祉や認知症介護といった問題をどれだけ語ってきただろうか。自戒を込めて。(かとう かずゆき)



《 今月の紙面 》

- ・【巻頭言】「介護離職ゼロ」のしらしさ 教育現場を退職して思う /加藤和幸 ……P1
- ・アクティブな教育には、先ず教師の能動性の保障を/三上周治…P2.3
- ・滋賀県内の戦争遺跡が語るもの・滋賀県内の戦争記念物/水谷孝信…P4.5
- ・教育勅語について考える一森友学園問題を通して一/八耳文之…P6.7
- ・何事も生徒に押しつけない/岡本一郎…P8